

『徒然草』

- 無常の美
  - 兼好法師
    - 「はかなさのなかにこそ美しさが宿る」
    - 心の豊かさや精神的な充実こそが大切
  - 
    「もののあはれ」という美意識
    - つかの間の美しさ
    - 散りゆく桜、移りゆく月の光など
- 日常の叡智
  - 貴族や僧侶、庶民の生活
    - つぶさに見つめる
    - 振る舞いや心のうちを描写
  - 現代と共通
    - 友との付き合い方
    - 物事を決めるときの心構え
    - うぬぼれや妬み、なまけ心 など



- 心の隠遁
  - 
    隠遁への思い
    - 世俗の欲望や社会の束縛から離れる
    - 自然とともに生きることの素晴らしさ
  - 現実逃避ではない
    - 本当の自分と向き合うための道
    - 静かに読書や思索に親しむ
    - 完全な世捨て人になるのではない